

1. 日時 平成25年12月17日（火）11:27～11:56

2. 場所 総理官邸4階大会議室

3. 出席者

議長	安倍 晋三	内閣総理大臣
議員	山本 一太	科学技術政策担当大臣
同	新藤 義孝	総務大臣
同	(上川 陽子	総務副大臣代理出席)
同	麻生 太郎	財務大臣
同	下村 博文	文部科学大臣
同	茂木 敏充	経済産業大臣
同	(磯崎 仁彦	経済産業大臣政務官代理出席)
議員	久間 和生	常勤
同	原山 優子	常勤
同	青木 玲子	一橋大学経済研究所教授
同	内山田竹志	トヨタ自動車株式会社代表取締役会長
同	中西 宏明	株式会社日立製作所代表執行役執行役社長兼取締役
同	橋本 和仁	東京大学大学院工学系研究科教授兼先端科学技術研究センター教授
同	大西 隆	日本学術会議会長
臨時議員	甘利 明	経済再生担当大臣
同	(西村 康稔	経済再生担当副大臣代理出席)
同	稲田 朋美	規制改革担当大臣

4. 議題

- (1) 国家的に重要な研究開発の評価
- (2) 科学技術イノベーションに適した環境創出について
- (3) その他
- (4) 最近の科学技術の動向「宇宙の起源と運命を探るKavli IMPU」

5. 配布資料

- 資料1-1 総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価「エクサスケール・スーパーコンピュータ開発プロジェクト（仮称）」の評価結果（案）【概要】
- 資料1-2 総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価「エクサスケール・スーパーコンピュータ開発プロジェクト（仮称）」の評価結果（案）
- 資料2 「世界で最もイノベーションに適した国」づくりに向けて～絶え間ないイノベーションの連鎖を生み出す～（有識者議員提出資料）
- 資料3 革新的研究開発推進プログラム（IMPACT）について
- 資料4 最近の科学技術の動向「宇宙の起源と運命を探るKavli IMPU」
（東京大学国際高等研究所カブリ数理連携宇宙研究機構 村山斉機構長説明資料）
- 参考資料1 平成25年度補正予算（案）における科学技術関係予算の概要
- 参考資料2 第115回総合科学技術会議議事録（案）

6. 議事

【山本科学技術政策担当大臣】

それでは、定刻となりましたので、第116回総合科学技術会議を開会致します。

本日は、臨時議員として、稲田規制改革担当大臣が、甘利経済再生担当大臣の代理として西村経済再生担当副大臣が御出席です。また、新藤総務大臣の代理として上川総務副大臣が、茂木経済産業大臣の代理として磯崎経産大臣政務官が御出席です。

会議の最後に、「最近の科学技術の動向」として、東京大学とカリフォルニア大学バークレー校で世界的な研究をされている村山先生からプレゼンテーションをして頂きます。この会議の為に一時帰国して頂きましたので、是非皆様に見て頂きたいと思います。

それでは、議題に入ります。議題1の「国家的に重要な研究開発の評価について」久間議員より御説明願います。

【久間議員】

「エクサスケール・スーパーコンピュータ開発プロジェクト」について御報告させていただきます。

今回、評価専門委員会におきまして、平成26年度予算要求の新規案件である「エクサスケール・スーパーコンピュータ開発プロジェクト」の事前評価を実施しましたので、御説明します。資料1-1の赤字の部分特に御覧下さい。1ページ目ですが、本プロジェクトはスーパーコンピュータ「京」の100倍にあたる演算性能エクサフロップス級のスーパーコンピュータと、それを活用する為のアプリケーションソフトウェアの開発を2020年頃までに行うものであります。評価結果案におきまして、世界最高水準のスーパーコンピュータは我が国の競争力の源泉となる最先端の研究成果を創出する強力なツールであり、国として開発に取り組むべきとしております。また、今後の課題として、ターゲットアプリケーションを設定し、これに基づきシステム構成や工程表などの具体化を早急に図ることなどを指摘しております。なお、指摘事項に対する対応状況については、次年度に総合科学技術会議で改めて評価を実施したいと考えています。

2ページ目では、期待される2つの産業応用の成果例を挙げています。まず、新薬の開発においては、疾患に対する新薬候補となる化合物の探索を行います。コンピュータシミュレーションによって、開発期間の大幅な短縮が期待できます。1万種類の化合物の探索を例にとりますと、「京」

では約2.4年かかるのに対し、エクサスケール・スーパーコンピュータでは約5.5日で行えるようになります。

次に、自動車の設計においては、「走行安定性能」、「対衝突性能」、「燃費性能」等を一体的にシミュレーションすることが可能になります。これにより、迅速な自動車の最適設計の実現が期待されます。

今後、我が国の産業競争力強化の為、世界最高水準のスーパーコンピュータの活用が必要と評価しました。来年度予算の編成にあたって、この評価結果を活用頂きますよう、よろしくお願い致します。

【山本科学技術政策担当大臣】

それでは、御意見を頂きます。下村文部科学大臣、どうぞ。

【下村文部科学大臣】

エクサスケール・スーパーコンピュータは、科学技術イノベーションの創出や産業競争力の強化において、競争力の源泉となる成果を生み出すものであり、まさに、我が国の成長戦略に貢献する国家基幹技術であります。文部科学省としては、今回の評価結果を踏まえ、関係府省とも連携しながら国として主導的に開発に取り組み、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には、世界一の力を内外に示し、国民と経済を元気にしていきたいと考えております。

【山本科学技術政策担当大臣】

他に御意見ございますでしょうか。「国家的に重要な研究開発の評価」について原案どおり決定してよろしいでしょうか。それでは、原案どおり決定することとし、関係大臣に通知することとさせていただきます。

続いて、議題2に移ります。科学技術イノベーションに適した環境創出について、資料2に基づき、原山議員より御説明願います。

【原山議員】

日本を「世界で最もイノベーションに適した国」へと変貌させるという総理からの命題ですが、これは、日本の社会のあり方そのものを根底から見直す作業でありまして、国全体として取り組むべき課題と認識しています。その中でも、総合科学技術会議として打つべき手の方向性を示させて頂きます。

イノベーションを加速する装置としてSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）を、また、イノベーションを起爆させる装置としてIMPACT（革新的研究開発推進プログラム）を埋め込む作業を只今行っています。それと同時に、体質強化が必須と考えています。なぜならば、目指すのは持続的、発展的にイノベーションの連鎖が起こるという状況でありまして、その為には強靱なイノベーションの基礎体力が必要という認識でございます。

ここでは三つの視点を提唱させていただきます。まず、現状認識ですが、イノベーション創出に向けて、特に90年代後半から、関連府省から様々な政策が打ち出されてきました。打てる手はほぼ出尽くしたと言ってもいい状況ですが、それにもかかわらず、絶え間なくイノベーションの連鎖が起こっているという実感を持っているかというところ、そこには至っていないというのが現状です。原因としては、イノベーションが生成されるプロセスの全体像を見回すことなく、個別解を打ち出してきただけということが考えられます。また、府省がそれぞれ所管する機関、分野を対象としての取組が主体となっているのが現実でありまして、既存の枠組みの中に閉じ込められるというのはイノベーションが最も苦手とするところと認識しています。それを改めて、オールジャパンの視点で全体最適化を図ることが第1の視点と指摘しています。

次に、時間軸に関してでございます。各国とも財政規律が厳しくなると、即効力のある施策に重点が置かれてしまっていて、必要と認識しながらも一朝一夕にして効果が見えにくい基礎的・基盤的な、基礎研究への投資、要はイノベーションの基礎体力への投資はおざなりになり易いというのが現状でございます。それを改めて、時間軸を意識して、バランス感を持った政策運営を行うことが必要と感じています。また、それを可能にする為に、成果を着実にチェックしていくという成果指標の開発・実装、また、社会実験の有効利用を検討することが第2の視点という認識でございます。また、社会実験の一つですが、この後に村山先生からお話しになりますけれども、色々なことが可能だというポテンシャルを持っている日本を、如何にそれを広めていくかが課題と思われまふ。

最後に、国際的な視点でございます。イノベーションの推進力は競争と協力の併存とよく言われます。これが顕著に現れるのはシリコンバレーの話ですが、同時に、国レベルで国際競争のプレッシャーに対して、自らの力のみで対抗するのではなく、相手の力をフルに活用していくというしたたかさが必要と思われまふ。まさにこれは合気道に通じるところと思われまふ。また、地球規模課題については、日本の貢献、例えば、いい例ですが、高齢化に伴う認知症対策について、世界中が注目しています。とりわけ新興国・開発途上国からの期待は非常に大きいというのが現状でございます。とかく課題先進国と言われますが、課題先進国であることを逆手にとって魅力的な環境を提供する国へと変身する、逆転の発想が肝心と思われまふ。ということで、バランス感を持って国際競争と国際協調を合わせることが第3の視点であると指摘させていただきます。

この三つの視点を踏まえた形で、何から着手していくかということになりますが、目指すべき優先課題として、三つ挙げさせていただきます。若手・女性など多様な人材が、国籍、既存の枠にとらわれることなく、創造性を遺憾なく発揮し、チャレンジする機会を持つ、言わば出る杭を発掘することが必要と考えます。次に、人の流動性が確保され、またそれを下支える資金が円滑に循環している状況。適材適所をタイムリーにということです。それから、かつての成功体験に縛られることなく、イノベーションによる社会変革を受容・適応する価値体系が浸透している状況を目指す。変革を恐れないということです。

主役は国民の一人一人と認識しています。その一人一人が評論家ではなくアクターとして活躍しやすい環境を実装する為に、総合科学技術会議においては政策パッケージを取りまとめ、来年の科学技術イノベーション総合戦略の改定に反映させるべきと考えます。

【山本科学技術政策担当大臣】

それでは、御意見を頂きます。内山田議員、どうぞ。

【内山田議員】

今、原山議員から三つの視点という御説明がありまして、3番目に国際競争と国際協調という話がありました。産業界としましては、とりわけ国際競争力の確保が重要であると考えています。国際競争力の確保なしには国際協調も出来ない訳であり、大学、研究機関、産業界、それぞれが国際競争力のあるものにしていかなくてはならないと思っています。具体化はこれからですけれども、政府におかれましても、その阻害要因の解消や環境整備をよろしくお願いしたいと思います。

【山本科学技術政策担当大臣】

青木議員、どうぞ。

【青木議員】

今の内山田議員の御発言に補足として、基礎研究が非常に重要であるということを強調したい。次世代コンピュータの話がありましたが、最初にコンピュータを作ったのは当然ながらコンピュータ学者ではなくて数学者でした。基礎体力というのは、そういう長期的に見た時のイノベーションには欠かせないことと、オープン・イノベーションで海外の技術を持ってくる場合も、基礎体力を持っているというのは非常に重要だと思います。これからしていくことは、山本科学技術政策担当大臣を中心に、科学技術の第三の矢だと思えますけれども、行政改革、法制度とか財政など、総理をはじめ、他の大臣の御協力も仰ぎたいと思います。よろしくお願い致します。

【山本科学技術政策担当大臣】

下村文部科学大臣、どうぞ。

【下村文部科学大臣】

我が国の経済成長を実現する為には、持続的に社会的・経済的変革をもたらすイノベーションを創出することは、不可欠であります。特に教育についても所管している文部科学省としては、「人」の観点から、世界と伍していけるグローバルな人材の育成が重要であり、関連する施策の強化を進めてまいりたい。また、イノベーションの創出の為には、関係省庁、関係機関、大学、民間団体等が総合的に連携・協力する体制の整備の重要性を認識しており、研究開発力強化法の趣旨を踏まえ、この取組を更に強化していきたい。安倍総理の提唱された「世界で最もイノベーションに適した国」の実現に向けた取組を、文部科学省としても全力を挙げて進めてまいります。

【山本科学技術政策担当大臣】

西村経済再生担当副大臣、どうぞ。

【西村経済再生担当副大臣】

イノベーションを創出する為には、総合科学技術会議がリーダーシップを発揮することが重要であります。その為、内閣府設置法の改正、それから事務局機能の強化など司令塔機能の強化について、是非着実に実現を図って頂きたい。

【山本科学技術政策担当大臣】

磯崎経済産業大臣政務官、どうぞ。

【磯崎経済産業大臣政務官】

「イノベーション・エコシステム」につきましては、グローバルとオープン、こういう視点が非常に重要だと思っています。私ども経済産業省の所管には産業技術総合研究所がございますけれども、この産業技術総合研究所は世界レベルの先端研究、産学官が結集するナノテクの産業拠点をつくばに構築をして、今研究を推進しています。また、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）におきましては、研究開発プロジェクトを、オープン・イノベーションを推進することによって実現をしています。ただ、なかなか不十分だと思っていますのが、中堅なり中小或いはベンチャー企業が有する技術というものを、国内外の技術であるとか、或いは市場に結びつけていくことですので、今回、補正予算もつけて頂きまして、その実用化を支援する制度を創設しています。

何れにしても、グローバルでオープンなイノベーションを推進していかなければいけないと思っていますので、産業技術総合研究所、NEDOの機能を今後どのように進めていくかということについても、本日御提唱頂いた内容を含めまして、今後検討してまいりたい。

【山本科学技術政策担当大臣】

只今御議論頂いたように、イノベーションを継続的・持続的に生み出す為には、オールジャパンで全体を俯瞰し、知のフロンティアを切り拓いていく為の環境整備についても並行して進める必要があります。有識者議員の方々の御提言、お知恵をお借りしながら、具体的な議論を進めてまいりたい。

続いて、議題3に移ります。この後、FIRST（最先端研究開発支援プログラム）のプロジェクトとして大きな成果をあげている村山先生からプレゼンテーションをして頂きますが、その前に、FIRSTの良い点を発展させて創設するImPACT（革新的研究開発推進プログラム）について、簡単に御報告を申し上げます。

資料3の1ページを御覧下さい。ImPACTは、PM（プログラム・マネージャー）に大胆な権限を付与して、プロデューサーとして研究者をキャスティングし、非連続イノベーションを創出しようとする我々にとって初めての取組であります。総合科学技術会議の司令塔機能を強化する三本の矢の一つとして、力を入れて検討してきました。今般、関係府省からの御協力もあり、「好循環実現の為の経済対策」に位置付けられ、平成25年度補正予算案に550億円を計上することが出来ました。担当大臣として、感謝申し上げます。同時に、成功させる為の大きな責任も感じています。

今後のスケジュールとしては、総合科学技術会議の主導の下、制度の構築、法令改正の準備を進め、年度内にこのPMの公募開始と基金の設置を予定しています。引き続き、関係の皆様御協力をよろしくお願い致します。それでは、中西議員、一言お願いします。

【中西議員】

このImPACT（革新的研究開発推進プログラム）の持つ効果というのを、名前のとおりインパクトのあるものにしていく為には、考えなければいけないことは沢山あると思っていて、その中で、総合科学技術会議も是非前向き色々な施策に対する実行の提案をしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【山本科学技術政策担当大臣】

それでは、次の議題からプレスを入れます。続いて、「最近の科学技術の動向」について、本日は、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構長の村山先生より御説明を頂きます。村山先生のプロジェクトは、世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）及びFIRST（最先端研究開発支援プログラム）による支援の対象ともなっていて、宇宙の起源と未来を解き明かす為、暗黒物質、暗黒エネルギーなどの研究を進めておられます。また、プロジェクトの特徴は、村山先生を起点に世界中の研究者、企業の力を結集させた、言わば日本主導の国際チームによる世界トップの研究です。それでは、村山先生、お願いします。

【村山東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構長】

本日はこのような機会を頂いて、誠に有難うございます。私はアメリカのカリフォルニア大学バークレー校で20年間研究をしてきました。6年前に東京大学で新しい研究所を作りたいということで、日本とアメリカを行ったりしながら暮らすことになりました。

次の画面お願いします。その時にお世話になったのが、この総合科学技術会議から出発したWPI（世界トップレベル研究拠点プログラム）、これでもって世界にオープンな、世界トップレベルの研究所というものを作るということですし、それからFIRST（最先端研究開発支援プログラム）、これで世界をリードする研究内容にチャレンジするというので、今まで仕事をしてきました。

次の画面お願いします。WPIのおかげで、我々の研究所、まだ6歳ですけれども、ここまで成長しまして、外国人のメンバーが既に5割をゆうに超えています。

次の画面お願いします。しかも、沢山いるというだけではなくて、素晴らしい人が来てくれています。例えば、イギリスやアメリカの主要研究所からオファーがあったのに、それを断って来てくれた人とか、MITを離れて、我々のところに来てくれた人が別の日本の大学に浸透していくというようなことが実際に行われていますので、本当に日本をオープンにしていって大きな力になってきていると思っています。

次の画面お願いします。当然、こういう人達が来てくれるというのは、我々の研究計画が魅力的だから来てくれる訳ですけども、我々の研究テーマは宇宙です。宇宙は、ビッグバンで「バーン」と始まったこの宇宙から、だんだん大きくなって、いずれ我々が生まれて、我々はどこから来て、どこへ行くのか、といったような素朴な疑問を今考えている訳ですけども、この宇宙が大きくなっていく様子、最近の観測で分かってきたことに、本当に驚いたことがありました。実はこの宇宙の膨張というのは最近加速を始めました。最近といっても、宇宙ですので、約70億年前の話ですけども。これは、本当に驚きました。というのは、ビッグバンで「バーン」と始まった宇宙ですけども、重力は引っ張る訳ですから、当然それを押しとどめようとして遅くなるはずだと思われていました。でも、加速しているということは、宇宙の膨張を後押しするような何か変な物が存在しなければならない。これが何かまだ分からないのです。この変な物を暗黒エネルギーと名前を付けていますが、この正体はまだ皆目分かっていない。でも、とにかく宇宙の膨張は加速しているという訳ですから、この先どうなるのだろうかというのは当然興味の対象になってきます。そうすると、今加速しているのが、また減速していくのか、または、この加速が永遠に続いていくのか、それとも、この加速が更に進んでいって、あるところで宇宙が言わばびりびりに引き裂かれて終わってしまうのか。この引き裂かれていく場合のことを「Big Rip（ビッグリップ）」と呼んでいますけれども、宇宙の運命は一体どれなのだろうか。これが今非常に重要な課題として、世界中で注目を浴びています。

次の画面お願いします。このビッグリップが本当に起きるとすると何が起きるかですが、銀河もどんどん引き裂かれてばらばらになり星だけになる。その星に暗黒エネルギーの影響が及ぶと、このようにばらばらになってしまっ、全ての物が原子そして素粒子に還っていく。それがこのビッグリップという可能性です。このように宇宙の未来がどうなるのかということを知ろうとすれば、例えば日本の高齢化がどうなるのかということを知りたければ当然国勢調査をしますが、宇宙も同じで、宇宙の国勢調査をしなければいけない。非常に大量の観測が必要になってきます。

次の画面お願いします。その為に、我々が開発して完成したカメラがこれです。所謂デジカメです。デジカメと言っても望遠レンズだけで人間以上の大きさがあって、カメラ本体をつけると、この倍ぐらいの大きさで3トンの重さになりますから、持ち運べるものではないです。画素数が非常に多く、しかも視野も非常に大きいので、今まで出来なかった観測が出来るようになりました。

次の画面お願いします。これはアンドロメダ星雲の写真ですけども、アンドロメダ星雲は非常に大きくて、満月の10倍ぐらいの大きさに見えます。（カメラの視野が大きいので）それを一度に一枚の写真に撮ることが出来ます。一方画素数も10億近くありますので、どんどん拡大していっても大丈夫です。

次の画面お願いします。拡大しても画像が潰れずに250万光年の彼方にある星の一個一個まで鮮明に見えます。しかも、アンドロメダ星雲の後ろにある何十億光年彼方の銀河も見ることが出来ます。こんなに性能のあるカメラを使って、ハッブル望遠鏡を使うと何千年もかかる観測を数年で観測出来るようにするのが我々の計画です。

次の画面お願いします。我々のチームでは、研究所にいるメンバーだけでもこのように国際的なチームになっています。このアンドロメダ星雲の観測だけでも非常に注目を浴びていまして、日本のメディアや海外のメディアでも色々と取り上げられました。

動画を御覧下さい。これは数十億光年彼方の銀河から来る光です。光の粒々としてやってくる訳ですが、我々の銀河系に達し、太陽系に達し、惑星を横切りながら地球を達し、最終的にハワイ本島の山の上にある日本が作ったすばる望遠鏡という素晴らしい望遠鏡に到達します。この望遠鏡は世界最大級の鏡を持っていますので、沢山の光を集められます。そして、その一個一個の光を、光ファイバーケーブルを一個一個ロボットで制御して、特定の銀河から来る光を捉えるように制御します。その光は、最終的にこの分光器という装置に入る訳ですけども、ここで、青から赤外までに亘ってどういう光が来ているのか、それを見ることによって一個一個の銀河までの距離・運動を正確に測れるようになります。

次の画面お願いします。これは世界でも非常にユニークで魅力的な計画だということで、一緒に研究をやりたいと世界中からこんなに集まってきました。

次の画面お願いします。例えばプリンストンであるとか、カルテクであるとか、ドイツのマックス・プランク研究所などの人達が、手弁当で参加させてほしいということで、日本主導の国際チームが発足しました。我々は、この計画をSuMIRe計画と呼んでいます。

次の画面お願いします。この研究は、勿論宇宙を研究するのが目的ですけども、実際には、世界で誰もしなかったような研究をしなければいけないので、非常に高い技術が必要になります。こういう色々な企業と協力して仕事をしている訳ですが、宇宙の研究の為に開発された技術が、例えば医療に役に立ったり、日本の安全・安心の為に役に立つということが広がってきていますので、イノベーションに実際に繋がっています。

次の画面お願いします。一般的にそうだと思いますけれども、基礎科学というのは、今まで誰も思いつきもしなかった、誰も出来るとも思っていなかったことをしなければいけないということで、本当に極限的な技術が必要になってきます。例えばwww（ワールドワイドウェブ）なんて、今はあたり前のように使っていますけれども、これは、そもそも世界中の研究者がデータを共有する為に作られたシステムがこのように使われるようになっている訳で、これがなければ今インターネットは存在していないから、非常に大きなイノベーションを生んだ訳です。

次の画面お願いします。他にも沢山あります。例えば超電導リニアですが、元々は低温環境をフロンティアと考えて純粋に追求した研究者が超伝導という現象を発見して、それが超電導リニアに結びつきました。また、宇宙の初期を実験室で再現する為に加速器という装置を使う訳ですが、その技術を使って、今、癌の診断が出来るようになりました。それから、重力を本質的に理解しようとしてアインシュタインが作った相対性理論が今ではGPSとか準天頂衛星の技術に結びついている訳です。このように基礎研究というのは誰もしなかったことをするというところで、非常に極限的なニーズが生まれて、そこに突然非連続的で大きな発展が生まれるという例が実際に沢山起きています。これは本当に基礎研究でないと、少しずつ進めていくのではなくて、突然飛び出てくるような発展はなかなか生まれませんと思います。

次の画面お願いします。これは私が講演している時の様子ですけども、こういう宇宙についての素朴な疑問というのは、大人から小さな子供まで、皆関心を持ってくれています。この子は、小学校2年生ですけども、私の手書きのアインシュタイン方程式をコピーして持ってきました。このように、子供でも本当に目を輝かせながら、こういう話を聞いて、その子供達が、次の日本を担う人材になっていくだろうと思います。理系に進んで、色々な勉強をして、最終的には日本を支える人達になってくれるだろうと思っています。簡単にまとめますと、政策というのは豊かな美しい

日本をどう作るかということだと思います。その為には豊かな経済力が必要です。その経済力を支えるのは新しい技術です。この新しい技術を開発する為には、先程言ったような極限的なニーズを目指すというところがモチベーションになってきます。一方、この美しい日本を作る為には、国際的なステータスが必要で、その為には優秀な人材が必要な訳ですが、これはやはりグローバルな環境の中で鍛えられた人がこうやって日本を支えていくのだろうと思います。何れにしても、この基礎科学が非常に大きなドライビング・フォースになっているということは言えると思います。それを支えてくれたのが今日お話ししたF I R S TとW P Iのプログラムです。先程の子供達と同じように、本当に目をきらきらさせて聞いて下さった方がここにいらっしゃいます山本科学技術政策担当大臣です。

【山本科学技術政策担当大臣】

素晴らしいプレゼンテーションを有難うございました。安倍内閣の下で、村山先生のような方がずっと日本に留まりたいと思われるような、科学技術イノベーション拠点を作っていきたいと思います。それでは、最後に、安倍総理から御挨拶を頂きます。

【安倍内閣総理大臣】

科学イノベーション政策の真の司令塔として、安倍政権の下で新たに生まれ変わった「新生」総合科学技術会議が3月のスタート以来、実に10回の審議を重ねてまいりました。この1年で「科学技術イノベーション総合戦略」等の多くの成果をあげて頂き、私の目指した総合科学技術会議の再生は実現出来たと考えています。有識者議員をはじめ、各議員のこれまでの多大な御貢献に改めて感謝申し上げたいと思います。今後とも、我が内閣のイノベーション重視の政策運営を支える大黒柱として、総合科学技術会議には大いに御活躍を頂きたいと思います。

その上で、本日は2点申し上げたいと思います。

第一に、革新的研究開発推進プログラム（I m P A C T）は、先週、閣議決定をした補正予算案において、厳しい財政事情の中で、将来に夢を繋ぐ国家重点プログラムとして格段の配慮を行い、550億円の予算措置を行いました。このプログラムを、日本の将来を切り拓く実効あるものとなるように、しっかりと具体化をして頂きたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

第二に、多様な人材のチャレンジが可能な、イノベーションの連鎖を起こす環境の整備の為の対応策パッケージを、関係府省が連携して、政府一体となって取りまとめ、来年の「科学技術イノベーション総合戦略」の改定に盛り込んで頂きたいと思います。

【山本科学技術政策担当大臣】

それでは、プレスの方々は退室をお願いします。本日の議題は以上です。なお、参考資料1として、「平成25年度補正予算案における科学技術関係予算の概要」を配布しています。また、第115回の議事録及び本日の資料は公表致します。以上で会議を終了致します。